

2020年版 農業法人白書より（経営規模と経営の多角化）

公益社団法人日本農業法人協会は、毎年、協会会員を対象に実態調査を行い、白書として公表している。調査対象期間は、2020年11月～2021年3月、有効回答数1,149（回答率56.2%）。

法人の会社形態については、株式会社が83.8%（特例有限会社を含む）、農事組合法人が14.1%である。経営体の主な業種（表-1）は、稲作が最も多く30.8%、次いで野菜24.2%、畜産17.8%、果樹7.4%、花き3.9%である。

農業法人協会の会員の土地利用型の平均経営規模（表-2）は、全国平均に対し、稲作では約36.2倍、露地野菜約34.3倍、果樹20.3倍と大きい。稲作で15ha以上耕作している経営体の割合は、全国平均1.8%に対し、協会会員では92.3%である。

売上規模の回答があった経営体（全体）の平均売上高は3億5,436万円、そのうち1億円以上が51.1%、10億円以上が5.7%となっている。業種別では、稲作は1億587万円、野菜は2億3,325万円、果樹は1億8,464万円、花きは2億1,727万円となっている。

生産以外にも加工や販売など多角化に取り組んでいる経営体は74.4%を占める（表-3）。業種別に見ると、稲作では生産・販売と生産・販売・加工の割合が高く、直売による独自の販路開拓や餅などの加工品の製造に、また、果樹は生産・販売・加工・観光の割合が高く、観光農園の経営など、積極的に多角化に取り組んでいることが窺える。これらに比べ、野菜では生産・販売と生産の割合が高い。（K.O）

表-1 主たる業種

業種	稲作	野菜	果樹	畜産	その他
割合（%）	30.8	24.2	7.4	17.8	19.7

表-2 業種別の平均経営規模

業種	当協会会員平均ha（A）	全国平均ha（B）	A/B
稲作（n=351）	65.2	1.8	36.2
露地野菜（n=132）	35.0	1.0	34.3
果樹（n=80）	14.2	0.7	20.3

表-3 経営の多角化と業種構成の割合

業種	生産	生産・販売	生産・加工	生産・販売 加工	生産・販売 観光	生産・販売 加工・観光
稲作（n=278）	17.3	41.0	4.9	29.5	2.3	4.9
野菜（n=232）	31.6	38.3	5.9	16.0	1.5	6.7
果樹（n=73）	7.1	21.4	2.4	27.4	7.1	34.5

2020年版 農業法人白書より（経営課題とスマート農業技術）

日本農業法人協会員の経営者の平均年齢は、58.5歳（全国平均67.8歳）。60代未満の割合が82.7%（同55.5%）と高く、70代以上の割合は低い。また、50代以下が4割以上（全国平均約2割）を占めるその一方、70代と80代が17.7%と、承継問題が迫っている法人もある。

また、本白書では、現在の経営課題やスマート農業技術についても調査している。

現在抱えている経営課題では、労働力が64.0%と最多で、依然、人手不足が浮き彫りになっている。さらに、所得にかかわる資材コストや生産物価格も課題となっている。なお、業種間では、稲作が基盤整備、資材コスト、野菜では流通コスト、果

樹ではセーフティネット、経営の多角化といった課題が上がる。

スマート農業技術の導入目的としては、作業負荷軽減、労働時間削減、生産工程管理最適化が多い。採用している技術では、生産管理支援システムが最も多く18.8%で、農薬散布・肥料散布16.8%、田植え機11.4%となっている。これらのスマート農業技術の採用で、簡素化・省力化や作業スピード向上を実感したとの回答が多く、導入に満足している。その一方、使っていないとの回答も31.1%ある。導入をためらっている理由として、初期投資が高額であるが最も多く、次いで技術の性能が不十分、実情に合わない、コスト面や機能面にまだ課題が残っている。（K.O）

表-1 現在の経営課題（複数回答 n=895 単位：%）

労働力	資材コスト	生産物価格	基盤整備	流通コスト
64.0	46.3	35.3	21.2	20.1

表-2 スマート農業技術の導入目的（n=532 単位：%）

作業負担軽減	労働時間削減	生産工程管理最適化	収量収益向上	規模拡大
68.2	61.7	42.5	39.7	23.9

表-3 採用しているスマート農業技術（n=1,053 単位：%）

生産管理支援システム	農薬・肥料散布	スマート田植え機	経営管理支援システム	作業アシスト
18.8	16.8	11.4	10.4	9.8

表-4 スマート農業技術を利用してよかった理由（n=508 単位：%）

簡素化・省力化	作業スピード向上	生産コスト低減	品質向上	事業拡大・規模拡大
63.6	56.3	26.0	22.2	14.2

表-5 スマート農業技術の改善点（n=427 単位：427）

コストが高い	技術の性能	実情に合わない	相談窓口	コンサルタント
48.7	29.0	20.8	20.1	14.3